

「農協改革ボックス」に寄せられた提言（抜粋）  
（その3）

## 【消費者ニーズへの対応】

1個で満腹になる消費者に「これを安くするから3個食べて下さい」と勧めても買わない。しかし、どうせ1個買うなら「わたしの作った産物はこれこれの作り方でこれこれの価値があります。通常100円ですが、こだわりの産物なので120円です」とアピールし、買ってくれば2割収入が増える。胃袋のニーズを把握し、農家や地域ごとの違いを鮮明にし、100円の産物の価値を120円に高めて売っていく時代なのだ。そうでないと日本農業は成り立たない。  
（農協組合長）

## 【生産資材のコスト】

これまで開催された「農協のあり方についての研究会」の議事要旨や優良事例等を見て、自分が勤めている農協としては何が出来るのかを考えても考え込んでしまいます。

いかに農業を発展させ、農協の存在価値を高めるにはどうしたらよいか、大きな課題であると思っています。例えば購買事業を考えると、やはり、生産資材・生活資材の価格問題が大きな問題となっています。全国の農家から予約を積み上げ、全農が価格交渉をし価格を引き下げる。しかし、全農、県経済連の中間マージンにより、実際に農家が買う価格がホームセンターより高くなっているということが起きている。また、伝票だけ経済連を通すため、仕入れ価格が上昇する。これが現状ではないでしょうか。

全農・経済連の必要性は周知のこととっていますが、こういった経済事業改革の協議となると、自分の利益（既得権益）を守ろうとしているような気がします。

（農協職員）

## 【他業者との競争の促進】

私は、肉牛と野菜の複合経営に取り組む農業者です。8年前までは酪農を経営していたのですが、ちょうどガット・ウルグアイラウンドのころ、農協という組織のあまりの危機感のなさや英知のなさに愛想を尽かして酪農を廃業し今の仕事に転換したのです。

野菜生産をはじめてからは、「専門職員がいない」との理由で資材の購入も生産物の販売も農協は扱ってくれないので独自に行っていますし、「酪農と違い収入が不安定」なので資金の新規貸付も認めてもらえません。自分で選んだ道なので仕方ないですし、自分の作ったものを自分で売る楽しさもあるので後悔などは全くなく、楽しみながら営農に励んでいます。

販売（営業）能力がなく、資材は商社より高いような農協に存在価値などあるのでしょうか。どうしてこんなに農協は駄目な組織になってしまったのでしょうか・・・それは競争がないからです。

私は、農協改革はごく簡単に実現できると思っています。競争相手を作ればよいのです。商社の農協事業参入と株式会社の農業参入（農地の監視強化も同時に行う必要がある）を同時に進めれば農家のためにもなるし、過疎化が進む農村にも良い波及効果が期待できます。

このような方法は農協は反対でしょうけど、私のような若手農業者の中には賛同者はかなりいると思います。

( 農業 ( 法人 ) )

### 【アグリビジネスから見た農協】

私は北海道十勝地方で民間の会社で働いております。取扱品目が地元のJAとバッティングするため、JAの仕組みについて生産者を通じてよく批判的な意見を聞かされます。

もっとも多いのは、「競争原理」がない。品質の悪い生産物を出荷した農家が救われる。JA職員に専門職がない。職員に責任意識がない。などです。戦後50年以上経っても基本構造が変わっていないようです。

もちろん、ここ北海道十勝地方以外でのJA系統組織はそれなりに変化しているようですが、この管内だけはまだ「治外法権」の様相です。

提言 JAは事業そのものを「民営化」する

現状の「公務員に準ずる」就業規定は廃止し、能力給を導入する。実績に応じた配分が必要。

そもそも、組合長が生産者である必要がない。経営能力があれば民間から登用すべき。

営農指導の強化

ほとんどの農家がJAでなく、民間の肥料会社や機械メーカーの営業の方にコンサルティングを受けている。(各々に)

営農指導を強化することにより、生産物の品質も上がり集荷率も上がるはずだが。

補助金の直接支払い

現在ほとんどの制度資金、補助金はJAが窓口になっている。農家はJAの担当者に頭を下げて資金を借りる手続きをしている。そして、JAはそれをネタに生産物の出荷を強要する。

農家の取組みそのものに補助金を出す仕組みが必要。

施設

既存のJA施設のほとんどが、補助金がらみである。JAは本来、国と国民、そして生産者の「財産」である施設を私物化してはいけないはず。農家の自主的管理に移行するべきだ。

( 会社員 )

### 【行政との関係】

昨年、農協生産部の役員をやり気付いたことがあります。

農協職員は行政の下請けの仕事が非常に多いことが分かりました。今までの慣例だといって、嫌々やっているとのこと。国、県、市、農協というラインに乗っ取ってやる仕事はとてもスピードに欠け、そのスピードを来年は少しでも速くしようという工夫のかけらもありません。

私たち農業だけを生業としている者は、確実に進化しなければ生活できないという土壌にいます。農協職員のやる気を引き出すために、市で出来る仕事は市の職員で対応するシステムを作って、農家と同じ土壌で働かせて欲しいと望む次第です。改革は、行政側が変わるのも農協改革の重要な方策ではないでしょうか。

( 農業 ( 法人 ) )